

五戸総合病院での研修を終えて

大阪公立大学医学部附属病院
2年次初期研修医 真野雄貴

令和5年6月に五戸総合病院 外科で地域医療研修をさせて頂きました、大阪公立大学医学部附属病院2年次初期研修医の真野雄貴と申します。人生初の東北地方、さらにこれまでとは全く異なる環境での研修であり、大いに期待していた一方、高齢患者さんの話す方言は分かるだろうか、今の自分が病院の役に立てるだろうかという不安もかかえながら研修を開始しました。研修を修了した今思い返してみると、非常に充実した1ヶ月間でした。

“地域研修”と聞いて一般的に想像されるのは一般内科診療や訪問診療だと思います。五戸病院での地域研修もこれらは例外ではありませんが、五戸病院は周辺地域を支える総合病院ということもあり、これらに加えて手術の執刀、全身麻酔管理、内科・外科の入院管理、内視鏡検査など非常に多岐にわたる経験もさせていただきました。いずれも大学病院での研修ではなかなか経験することの出来ないもので、大変勉強になりました。

この地域研修を通じて最も印象的だったのは、安藤院長の専門外であっても必要なこと、出来ることは何でもするという姿勢です。院長の専門は外科ですが、内科入院患者数十名の主治医となり自ら診療を行う他、終末期ケアや褥瘡処置、内視鏡検査、訪問診療、検死など様々なことをされていました。入院患者の病気は肺炎や尿路感染症、心不全、COPD、糖尿病など様々で、外科を専門としている院長が他分野の疾患に対しても幅広い知識を持って診療されている点には非常に驚きました。大学病院の医療は、高度に専門細分化が進んでおり、自身の専門分野以外は他科に振ることが多いと思いますが、このような病院では何でも診るジェネラリストが求められており、それを院長自ら実践しているのだということが分かりました。さらに専門でないからといって全く妥協することなく、高いレベルの医療が提供されている点にも感銘を受けました。私も今年度で初期研修が終わり、続いて専門医のプログラムが始まりますが、専門性の高いスペシャリストである前に何でも診るジェネラリストであることを心がけて医師としてのキャリアを積んでいきたいと思いました。

また、この研修期間中に地域医療とは何かと考える機会がありました。研修中に、母親とメッセージのやり取りをしたのですが、青森で地域研修をしていると伝えたところ、ドクターヘリなどを想像したようでした。私が実際に行っている研修とあまりにもかけ離れており、どうしてそういう発想になるのかと最初は疑問に感じましたが、私にとっても地

地域医療という言葉が非常に曖昧であることに気が付きました。しかし、五戸総合病院に勤務し、安藤院長の姿をみて自分なりに地域医療とは何かがみえてきたように感じます。地域医療は、限られた医療資源の中でその地域から求められるニーズに可能な限り応えるということだと思います。地域医療と聞いて、母親がドクターヘリを想起したのは過疎地や田舎での医療を想像したからだと思いますが、大阪市内で地域医療の研修を行っている研修同期もいますし、場所（都会だとか田舎だとか）の問題ではないと考えます。どの地域であっても、地域住民の必要としている医療を提供しようと、病院がその役割を柔軟に変化させていき、ニーズへの応え方として様々な医療の形が存在するということだと思います。

最後になりましたが、五戸総合病院のスタッフの方々は皆さん本当に親切で、楽しく充実した1ヶ月間を過ごすことが出来ました。忙しい外来病棟業務の中で丁寧にご指導くださった安藤院長、病棟・外来で困っていると直ぐに声をかけて頂き、補助してくださった看護師さん、丁寧に患者さんの情報共有して下さったりハビリスタッフ、宿舎や送迎など研修のサポートをして下さった事務の方々には心から御礼申し上げます。この五戸総合病院での地域研修での経験を活かし、さらに医師として成長できるよう精進して参ります。大変お世話になりました。